



# つばさ

多摩市立聖ヶ丘小学校  
 特別支援教室 つばさ  
 令和5年 9月 29日  
 つばさだより 第7号

## 「気持の言葉・感覚の言葉」でつながったり共有したりする空間・今日の自分のココロは？

以前にも紹介しましたが、小集団指導の中で「スピーチ」「テーマトーク」という活動で自分の気持や感覚を表出する場面があります。夏休み明けも、この指導を継続し、子供たち同士で互いに自分の気持ちや感覚について共有をしています。今日の「テーマトーク」のお題は「今日の自分の調子」「プール指導について」「運動会」の三点でした。

今回は最初に横線をホワイトボードに引き、左側を「良い」「好き」右側に「いまいち」「苦手」を設定して自分の気持ちや感覚がどの辺にあるのか書き込んでいきます。迷わずに「良い」の側を選ぶ子、ちょっと考え込んで「いまいち」の側を選ぶ子、いろんな反応が出てきます。その後は、理由について聞いていきます。(必要に応じて教師が言葉を補う場合があります)。今日は以下のようなやり取りができました。

Aさん「今日は朝の時間、ちょっとだけ好きなゲームができた。そのときにレアなアイテムをゲットできたので朝は気分がよい!」

Bさん「今日は好きなプロ野球チームの試合があって、好きなピッチャーが先発する」ので気分が上がる。

Cさん「昨日は習い事があり、とても疲れて寝坊してしまった!」ので、気持ちがよくない…等々。このように意見を共有する中で「へえ～朝のゲームでそんなに気分変わるんだ」「野球だけで気分よくなる?」「好きなものがあると確かにそうかもね。」「習い事大変なんだね。」「私も同じ気分!」等々の声も出てきます。他の「プール」や「運動会」についても人それぞれの気持ちや感覚からの発言が出てきました。子供たちは日々全力で学校生活を送っていますが自分だけでは整理することが難しい気持ちもあると思います。この小集団指導の中では自分のココロや気持ち、感覚がどんなものか言葉にしたり共有したりする中で自分自身に見えてくることや相手のことが分かることがあります。そのようなことを付け加えながら話していきました。

## 「褒められる」ことってどれくらいあるだろう。自戒もこめて大人の振り返り……

次のエピソードは子供たちとのやり取りから出てきた話です。「褒められること」というお題でスピーチをしました。ある高学年グループのトーク場面では、自分が最近褒められたことについて話をしていくと、どの子もなかなかどうしてマイナスなエピソードしか出てきませんでした。(つまり「怒られたこと」「お小言」の話がメインでした。)学校でも家庭でも「褒める」ことの大切さは教育の観点、子育ての観点から常々語られています。しかし、当の子供たちの生活の中では「怒られてる」という印象の方が強く残っていることを強く感じました。このことは、大人側(教師や保護者。様々な立場があると思いますが。)から振り返っても自転車操業の日々の中では、勉強のこと、ゲーム時間のこと、宿題のこと、生活リズムのこと、など、子供たちのどの場面を切り取って褒めたものなのかは大いに悩むところでもあります(むしろ「いい加減に気が付いて!」と声を張ってしまうことの方が多いかもしれません…。)このような場面が以前ありました。職員室で担当児童の担任の先生と話をしているときに、ふとその担任の先生がそのA君のちょっとした授業中の所作について褒めました。後日、A君に何気なく担任の先生が褒めていたことを伝えました。すると、普段ちょっとツンツンしてるA君の顔がとても和らいで「ふ～ん、まあね。」とまんざらでもない表情と態度となりました。やはり、ほんのちょっとしたことや何気ない「評価」や「褒めたこと」のような「肯定的」なことが伝わることは、とても意味のあることだと感じました。自分にとって「肯定的」な評価がなんだか嬉しくなったり自信につながったりするのは、大人も子供も同じようです。忙しい日々ではありますが、「肯定的」な視点で物事を見ていくことの大切さについて改めて考えた次第です。

## お知らせ

\*第二期の個別指導計画を配布いたします。内容を確認していただき、各ご家庭で保管をお願いします。

内容について不明な点、変更して欲しい点、加えて欲しい点などありましたらご記入いただき、教室まで返送してください。その必要がない場合、返送は不要です。ご家庭でそのまま保管をお願いします。